

## 4 周辺環境への影響

### 動物、植物、生態系

#### 動物、植物、生態系の状況

関越自動車道とのジャンクション周辺から青梅街道周辺及び東八道路周辺までの区間において、全体として約2,400種の動植物が確認されました。そのうち、注目される種※として133種が確認されています。

#### 動植物の確認種数及び注目される種

分類群	確認されたすべての種数	そのうちの注目される種
哺乳類	5科5種	該当する種はありません
鳥類	28科64種	ダイサギ、オオタカ、コアジサシ、アオゲラ、カワセミ等 (1科12種)
両生類	2科2種	アズマヒキガエル (1科1種)
爬虫類	7科10種	クサガメ、イシガメ、スッポン、ヤモリ、アオダイショウ等 (3科7種)
魚類	19科872種	アオモイトトンボ、エサキアメンボ、タロカナブン等 (3科33種)
昆虫類	10科34種	アブラハヤ、ニゴイ、ホトケドジョウ、メダカ、ウキゴリ等 (3科17種)
原生動物	64科159種	ハダコトンボ、ウチワヤシマ、トラフトンボ (3科3種)
クモ類	22科118種	キシノウエトナナグモ、マキキグモ、コハナグモ等 (3科10種)
節足動物	14科16種	該当する種はありません
土壌動物	26科44種	該当する種はありません
植物類	135科744種	トクゴクシダ、ミズキンバイ、オウツ、エビネ、マヤラン等 (3科10種)
菌類類	24科46種	ヒメノハイゴケ、ウキゴケ (2科2種)
地衣類	12科19種	該当する種はありません
藻類	26科95種	該当する種はありません
付着藻類	31科164種	タンシイペニマダラ、カワモツク、ミドリカワモツク等 (2科4種)

※「絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)等で指定されている種を注目される種としました。

#### 観測位置図



### 目白通りと青梅街道にインターチェンジがない場合

【目白通りIC周辺】関越自動車道とのジャンクション部では、工事（開削等）によって動植物の生息・生育環境に影響を与える可能性があります。また、工事により地下水に影響を与えた場合、湧水等に見られる動植物の生息・生育環境にも影響を与える可能性があります。

【青梅街道IC周辺】外環本線を整備する場合、工事（開削等）区間が生じないことから、動植物の生息・生育環境への影響は、極めて少ないと見込まれます。

### 目白通りと青梅街道にインターチェンジがある場合

【目白通りIC周辺】インターチェンジを設置しない場合と工事（開削等）区間が変わらないため、動植物への影響は、同程度と見込まれます。

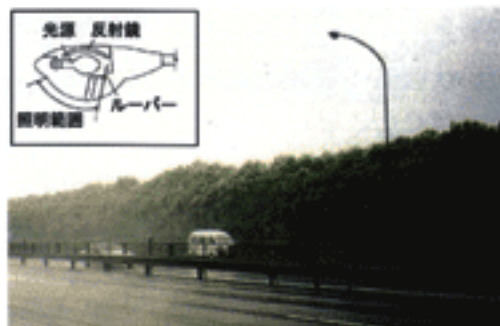
【青梅街道IC周辺】工事（開削等）によって、工事区間及びその周辺の動植物の生息・生育環境に影響を与える可能性があります。

動物、植物、生態系への影響が予測される場合には、適切な保全対策を検討します。

#### 動物、植物、生態系の保全対策の事例



■高架橋の下や森との間を、動物や植物が生息・生育する空間「ビオトープ」として自然な状態を創出した例です。（横浜横須賀道路）



■生物への光の影響を抑えるために、灯具にルーバーを設置した例です。（東関東道）

出典) 道路環境研究所エコロード検討委員会：自然との共生をめざす道づくりエコロード・ハンドブック、1996

memo

Large memo area with horizontal dashed lines for writing.